

がんごの 赤ひげ

Vol. 53



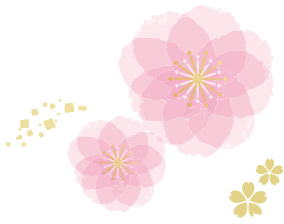
目次 contents

理事長ごあいさつ	1
院長ごあいさつ	2
看護部からみなさまへ ～看護将来ビジョン	3

薬剤師の病棟配置～多岐にわたる 病院薬剤師の仕事	4～5
ヘルパーステーションたんぼぼ ICT・業務効率化の取り組み	6

【天心堂の医療目標】 良質にして包括的な保健・医療・福祉を地域に提供する
そして100年を超えて生きつづける医療を実践する





理事長ごあいさつ

理事長 河村 忠雄

新年あけましておめでとうございます。

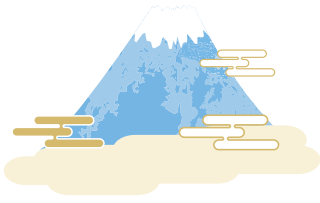
COVID-19の発生から4年目に入りました。昨年は第7派で日本中が、当法人でも第8波で災禍に見舞われました。徹底した感染対策やワクチン接種以上に職員の努力によってこの混乱が収められたことにとても感謝しています。

昨年は医師、看護師、介護士、事務職をはじめ多くの職員の尽力で好業績を維持し続けました。また、へつぎ病院では新たな看護管理者を迎えたほか、他の事業体でも新たな体制を構築し、様々な効果が生まれました。一昨年から続けていた種々の改革に、これらの効果が後押しする形となっており、本年の、来年度の明るさを示していると願っています。

様々な情報が駆け巡るなかで、厳しい未来を語るものが多いと感じることもありますが、天心堂は高い目標を掲げて歩いていくことを改めて誓います。

2022年
11月11日～12日
大野川合戦まつりへ
参加してきました





院長ごあいさつ

院長 岡部 英司

皆さん、明けましておめでとうございます。

2020年4月より、へつぎ病院院長を拝命いたしました岡部です。

早いもので、新興感染症が世界に流行し始めて3年が経過しました。流行初期には重症化率が高かったこの新興感染症ですが、最近では風邪の症状がやや強い程度の感染症と認識されている方が多いと思います。しかしながら医療機関では現時点では厳密に二類感染症として対応する必要があり、コロナ陽性患者さんを受け入れる場合は隔離病棟に入院させるしかありません。病院内でクラスターが発生した場合は、

- 1) 感染経路の特定
- 2) 発症患者さんの隔離
- 3) 入院患者さんにおける濃厚接触者の特定と入院区画の選定
- 4) 職員の濃厚接触者の特定
- 5) クラスター発生部署での患者さん及び職員の症状変化の観察
- 6) 症状に変化のあった場合はコロナの検査
- 7) 発生部署の陽性者以外の患者さん及びスタッフ全員の定期的なコロナ検査

等々行っていかなければなりません。その間、新たな陽性者が発生した場合は、その陽性者の濃厚接触者の洗い出し、入院患者さんであれば上述の1)～7)等の繰り返しとなります。当然、職員が陽性となった場合は、軽症であれば自宅待機となり、現場のマンパワーの低下につながります。また、濃厚接触者や感染者に対応する場合は、完全防護となりますので、通常業務自体がとても大変な作業となります。

へつぎ病院では11月中旬から順次発生した各病棟でのクラスターの対応に追われていましたが、本稿執筆中の12月22日現在、病院自体のクラスターは収束しつつあります。

この間、感染管理部の梅木副院長・大西主任、看護部の村上総科長・副田副看護部長・各病棟科長をはじめとする看護職員の皆さん、リハビリテーション科宮野科長をはじめとするリハ科の職員、羽田野科長をはじめとする透析センターの職員、国原技師長をはじめとする臨床検査科の職員、その他の診療技術部、事務部、医局等の全ての職員が総力戦でこの事態に対応してきました。また、各部門は様々な場面で人員に欠く部門をサポートし、この困難な状況に対応してくれました。その結果、異例の速さで各病棟のクラスターは収束し、病院内のコロナ感染症の蔓延という事態は防ぐことができました。

今回のクラスターは当院で初めて経験するクラスターで、どのような期間、どのような経過でこの感染症が拡大していくか全く予想ができませんでした。

しかしながら、病院運営に当たる全ての職員が現場で考え、工夫し、お互いを助け合いながらこの困難を乗り越えることができました。今ある問題点を、一つ一つ解決しながら前に進んでくれました。今まで、縦割りがちであった病院の部門が少しではありますが、交わる部分を持ち有機的な関係が構築されてきました。

へつぎ病院病院長として、この種をしっかりと育てながらより一層有機的に連携し、機能的に連動する組織を構築していきたいと考えています。

病院が決定した方向性に従い、現場で問題点を抽出し現場のスタッフがしっかりと考え、必要に応じて他職種と連携するところができる組織。

そのような有機的且つ機能的な組織が構築できれば、来るべきどのような困難でも、この病院は乗り切っていくことができると心から信じています。

今後とも、引き続きへつぎ病院の運営にご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

看護部からみなさまへ～看護将来ビジョン

副看護部長 副田 明美
副看護部長 村上 博美

看護部に、令和4年4月副看護部長2名が赴任致しました。現在、へつぎ病院とへつぎ診療所の医療部門において、看護の充実に向けて邁進しているところです。

天心堂は、大南地域を中心に全人的かつ包括的な医療・介護福祉・保健を統合した全世代型の地域包括ケアシステムを推進しています。

看護部では、看護の持てる力を十分に発揮できるように看護教育体制の再構築に取り組みを行っています。他施設からの講師を招き、部署研修や院内研修を行っています。看護実践者であるスタッフは勿論ですが、今後は、看護管理者の看護管理のマネジメント能力に力を入れていきたいと考えています。看護部としては、地域住民の健康を支えるための組織作りとして看護管理者の実践能力の向上が必要です。組織の看護の質評価をするためにも、質管理能力等の学びを深め組織マネジメントをすることが重要です。そのため私たちは、組織で働く人々すなわち「人材は財」であり、人と人とのふれあいを大切に人材育成にも力をいれ、個々が目指す看護を支える教育を目指します。お陰様で、今年度の新人看護師の皆さん方は、部署のスタッフみんなで育てることで順調に成長しています。これからの成長を楽しみにしています。また、法人内には、4領域の認定看護師（訪問看護・糖尿病看護・救急看護・感染看護）が存在し専門性の高い看護の提供をしています。今後は、院内のみならず地域への貢献ができればと考えています。職場環境では、他職種のみならず笑顔で助け合い協働し、「お互い様の精神が広がる輪」のような組織でありたいと思います。患者さん一人ひとりのその人らしさを大切に、病を抱えた患者家族に寄り添いその方達の思いに応え、地域で安心して暮らしていけるように努めて参ります。

当院では、大南地域の中核病院として社会情勢の取り巻く環境に対応すべくケア・ミックス型の急性期から在宅まで幅広く対応できるよう病床回復に向け体制を整えています。



近年、新型コロナウイルス感染症の流行により3年目を迎え、第8波への感染拡大が今まさに起きている状況です。当院では、緩和ケア病棟を感染病棟として運用していますが、感染症の取り扱いが2類感染症から5類感染症に緩和した際は、緩和ケア病棟を再開する方向で検討しております。その際は、関係施設の皆様にご案内させていただきます。

最後に、一人ひとりの看護職員がやりがいや達成感を感じ、職員スタッフの声に耳を傾け対話を大切にしながらいきいきと働きやすい職場環境づくりを共に考えていきたいと思っております。

地域になくってはならない病院として地域の皆様から「ここに来てよかった」と言ってもらえるよう医療・看護・介護の提供に職員一同取り組んで参りたいと思っております。

薬剤師の病棟配置～多岐にわたる病院薬剤師の仕事

和田 祐一郎

皆さんは「薬剤師」と聞いて、どのような仕事を思い浮かべるでしょうか？

調剤薬局でお薬をくれる人。ドラッグストアでお薬を案内してくれる人。

皆さんが普段薬剤師を見かけるのは、調剤薬局やドラッグストアを利用されている時が多いかと思われます。

病院にも薬剤師がいるのは知っているけど、会ったことがないという方も多いのではないのでしょうか？では病院にいる薬剤師は何をしているのか？

過去に、女優の石原さとみさんが出演された「アンシングシンデレラ」というドラマで、今まで一般的にあまり知られていなかった（と私は思っています）“病院薬剤師”が多くの人に注目されるようになりました。

ドラマを見た方はご存じかもしれませんが、病院薬剤師も実は色々な業務に携わっています。このなかで、「病棟に配置された薬剤師（以下、病棟薬剤師）」の業務に関して紹介させていただきます。

病棟薬剤師が病棟で行うおもな業務は、以下の2点になります。

①「病棟薬剤業務」

薬剤の投与前に患者さんの状況を把握し医師へ処方設計の提案を行ったり、医師や医療スタッフからの相談に応じたりすること。

②「薬剤管理指導業務」

薬剤の投与後に処方が適切であったかなどを確認して患者さんへ説明を行うこと。

この2つの業務についてももう少し詳しくお話させていただきます。

1 病棟薬剤業務

入院患者さんの情報を薬剤師の視点で把握し、医師、看護師、その他病棟スタッフに提供しています。内容は持参薬鑑別（※1）による薬の情報、初回面談（※2）による患者状況（服用状況、副作用歴、アレルギー歴等）などです。特に、入院中に注意が必要な薬に関しては、医師へ処方設計や代替薬の提案などを行っています。

入院後に使用する薬剤に際しては、医薬品の適正使用のため、個々の患者さんにあつた投与量等を計算して、投与速度や投与ルート、配合変化等の情報を医療スタッフに提供しています。必要があれば医師へ処方提案も行います。医療スタッフから受ける相談にも対応しています。また、ベッドサイドで直接患者さんからお話をお伺いし、特に安全管理が必要な医薬品の投与の際は、投与前に患者さんへの十分な説明を行っています。

病棟薬剤師はよりよい医療ケア提供のため、カンファレンスや回診に参加して治療方針の決定にも関わったり、医師・看護師・セラピスト・ソーシャルワーカーなど各方面の医療スタッフと情報を交換する事で、入院中のみならず退院後も患者さんが安全に不安なく過ごせるよう努めています。また、他の医療スタッフの知識向上のために病棟勉強会を行うなどチーム医療に貢献しています。

病棟薬剤業務の中に、「ハイリスク薬管理業務」というものがあります。

医薬品関連医療事故防止のため、特に安全管理が必要な医薬品が「ハイリスク薬」として定められています。薬歴管理、投与期間中の服薬状況の確認、定期的に副作用や相互作用のチェックを行うなど、患者さんにとって最適な薬物治療の提供に努めています。

さらに院内へハイリスク薬であることの注意喚起や情報提供など安全対策を行っています。



2 薬剤管理指導業務

入院患者さんを対象に行います。医師が処方した薬剤の内容を確認し、薬学的管理（薬剤の投与量、投与方法、相互作用、重複投与、配合変化、配合禁忌等の確認）を行い、投薬の妥当性を再確認しています。患者さんのベットサイドに伺い、投薬後の効果や副作用の発現がないかを確認しています。特にハイリスク薬・麻薬等に関しては患者さんが十分に理解できるよう説明や指導を行います。治療に必要な情報は、医師をはじめ医療スタッフと共有し、入院中のみならず退院後も継続して効果的で安全な薬物治療が行われるよう取り組んでいます。

少々難しいお話もあったかと思いますが、このような業務を通し患者さんへより安心・安全な医療を提供できるように、病棟薬剤師は日々努力をしています。

病院に入院することはそれだけで不安が大きいものです。そういった不安を取り除き、安心して治療に臨むお手伝いできれば、病棟薬剤師としてとてもうれしく思います。

どうぞ病院で薬剤師を見かけた際は、遠慮なく気軽にお声がけしてください。

※ 1 持参薬鑑別：患者さんが持ち込んだお薬をお薬手帳などで確認し、薬の情報を集めること

※ 2 初回面談：薬剤師による入院患者さんへの問診



ヘルパーステーションたんぽぽ ICT・業務効率化の取り組み

事務長 後藤 政彦
主任 古庄 達彦

当法人のヘルパーステーションたんぽぽは、1995年に開設されました。現在のスタッフ数は、管理者1名、サービス提供責任者5名、登録ヘルパー24名であり、主に大南地区を中心にヘルパー活動を展開しています。ヘルパー事業の問題点として、登録ヘルパー自身の高齢化が進み且つスタッフ募集を出しても全く応募がない状態が続いている。その反面、自宅等でのヘルパー支援を求める声は多く、介護分野の中で最も人材確保が厳しい事業となっています。

そのような中、業務効率化の取り組みの一環として事前申請していたICT導入補助金決定通知を2022年3月に大分市より頂きました。これにより、ヘルパー事業所の業務改革を開始しました。

1. 問題点

- ①登録ヘルパー確保が非常に困難。
- ②記録業務が非常に多い。
- ③活動前後に事業所に立ち寄ることが常識となっており、移動時間がかかる。
- ④戸次地区周辺以外の地域でも活動を広げたい。また、戸次周辺在住以外のスタッフ確保も行いたい。
- ⑤スタッフ全員の研修会開催がコロナ禍の影響もあり困難。

2. 取り組み

①記録時間の解消

登録ヘルパーが活動後記載する活動記録報告書が、未だに複写用紙を使用していたため、コピー用紙へ変更。これにより年間約9万円のコストカットが可能となりました。

また、その活動記録報告書をサービス提供責任者が電子カルテに手入力を行っていたため、手入力自体を廃止しました。廃止するための取り組みとして、報告書を事務スタッフがスキャナ取り込みを行いPDFへ変換。それを事務スタッフが電子カルテに貼り付けることで、手入力業務が廃止出来ました。これによりサービス提供責任者全員の記録時間に要していた月平均130時間の業務量削減が可能となりました。

②登録ヘルパー確保困難の解消

登録ヘルパー自体の確保困難は解消されないため、常勤のサービス提供責任者を採用しました。また、①で取り組んだ業務量削減を利用してサービス提供責任者自身が活動に積極的に従事することとしました。

③移動時間、広範囲活動、研修会開催等の解消

恥ずかしながら当事業所は未だにいわゆるガラケーをほとんどのスタッフに配布・使用していました。その為、今回頂いた補助金を利用して業務効率化を図り、需要あるヘルパー活動を地域へ還元する取り組みを行いました。具体的には、サービス提供責任者にはタブレットPCを配布、登録ヘルパーにはスマートフォンを全員配布しました。同時に、WowTalkという全国1万社以上で採用されているビジネスチャットシステムを導入しました。



(ビジネスチャット説明会の様子)

導入目的は、

- ・登録ヘルパーからサービス提供責任者へリアルタイム報告が可能。また、その逆も可能となります。
- ・研修会を事業所に集まることなく自宅等で視聴可能。
- ・登録ヘルパーの自宅が戸次周辺でなくても、当事業所で業務可能となる。それにより活動範囲も広がる。

3. ICT 導入後

- ①ビジネスチャット導入時、操作方法等不安に思っていたスタッフもいたが、1ヶ月経過する頃には逆に効率の良い操作方法を提案してくれるようになりました。
- ②業務効率化により業務拡大が可能となり、今まで新規のご依頼を選択していたが、積極的に受け入れることが可能となった。同時に活動範囲も広げることが可能となりました。



(実際のタブレット PC とスマホ)

4. 今後の取り組み

- ①ヘルパー業務の魅力発信を行い、若い世代のスタッフ確保も行う。
- ②業務効率化は常に進化しているため、新たな ICT ツールを積極的に導入する。
- ③活動範囲を広げ、大南地区以外においても対応する。



(スタッフ)

～ 新任医師紹介 ～

むらた ゆきえ
村田 由季恵 内科
日本内科学会認定内科医

地域連携相談部

みなさん、「地域連携相談部」をご存じですか??

へつぎ病院の「地域連携相談部」は、患者さんがスムーズに受診・入院できるように、また、住み慣れた地域へ退院できるように、医療機関、介護施設をはじめ、行政や福祉に関わる多くの施設との「つなぐ役割」を担っています。

主なスタッフは、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）、リハビリスタッフになります。

外来診察や、入院・退院のこと、福祉制度や施設の利用法等でお困りのことがありましたら、お気軽にご相談下さい。

天心堂へつぎ病院 地域連携相談部	
直通 電話 /FAX	電話：097-597-5812 FAX：097-597-3667
受付時間	8：30～17：30（土日・祝日を除く）
場 所	へつぎ病院 2階 カフェテリア前